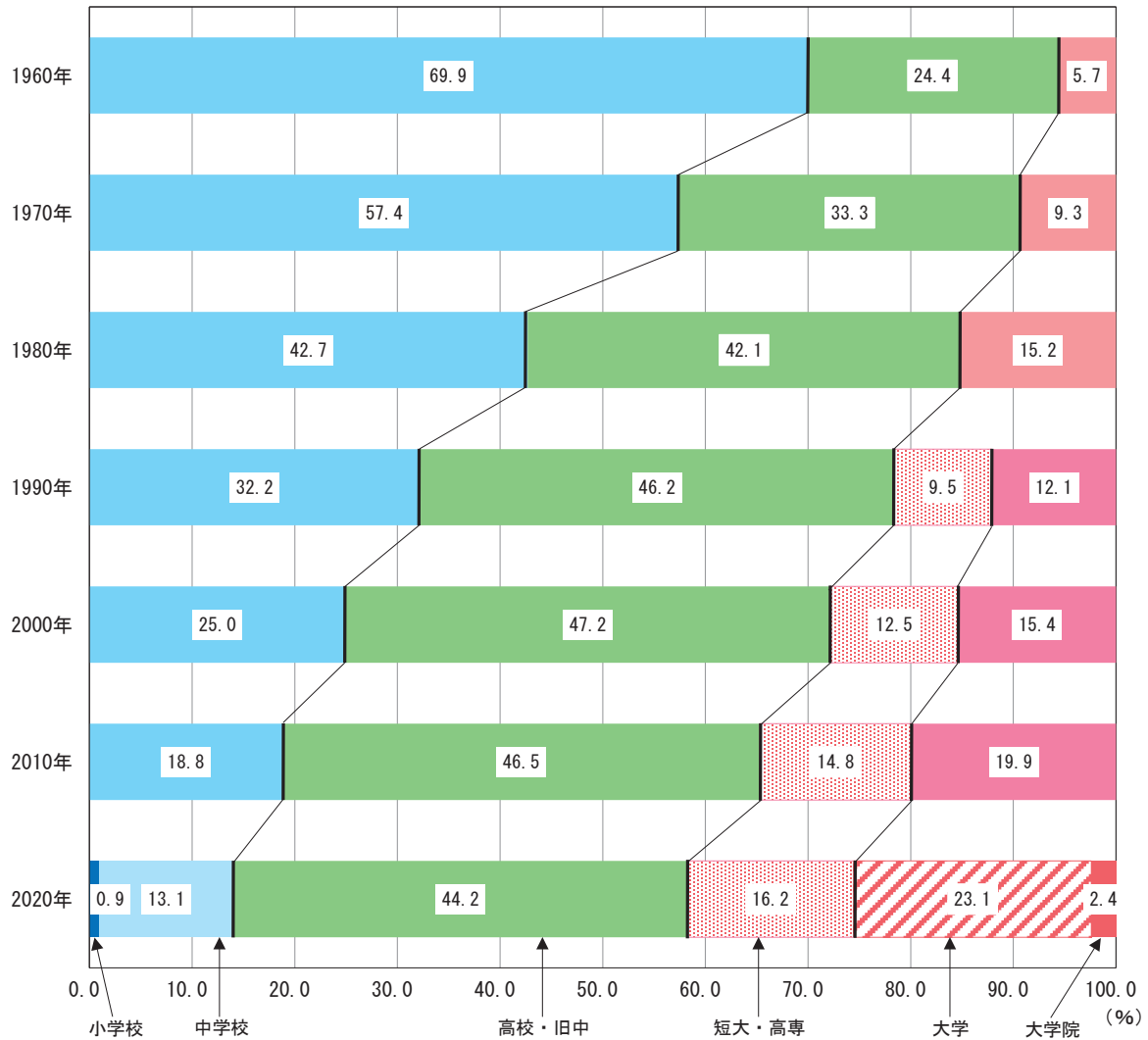


2-2 教育 –「学校」から社会へ–

学問の世界に限りはありませんが、卒業は一つの区切りといえるかもしれません。学校の種類別の卒業者の割合はどのように変化しているのでしょうか？ また、年齢によってその割合はどのように異なるのでしょうか？

Q1 卒業者の最終卒業学校の割合が高いのは？

15歳以上卒業者の最終卒業学校の種類別割合－全国（1960年～2020年）



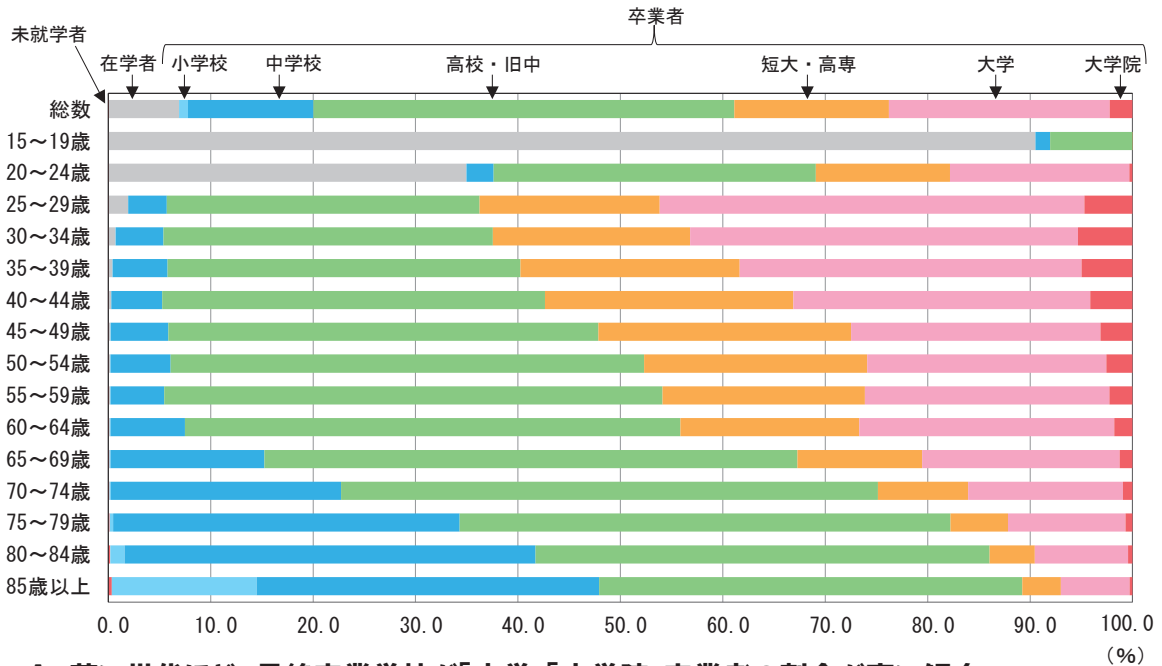
注) 1960年は1%抽出集計結果、1970年及び1980年は抽出詳細集計結果による。

A 2020年は、「高校・旧中」卒業者が最も多く44.2%

- ◆ 「短大・高専」、「大学」及び「大学院」の卒業者の割合が年を経るごとに上昇
- ※ 1980年以前は、「短大・高専」、「大学」及び「大学院」を「高等教育」として分類しています。
- ※ 1990年～2010年は、「小学校」及び「中学校」を「小学校・中学校」に、「大学」及び「大学院」を「大学・大学院」にそれぞれ分類しています。

Q2 最終卒業学校は年齢によってどのように違うの？

15歳以上人口の年齢（5歳階級）、在学か否かの別・最終卒業学校の種類別割合—全国（2020年）



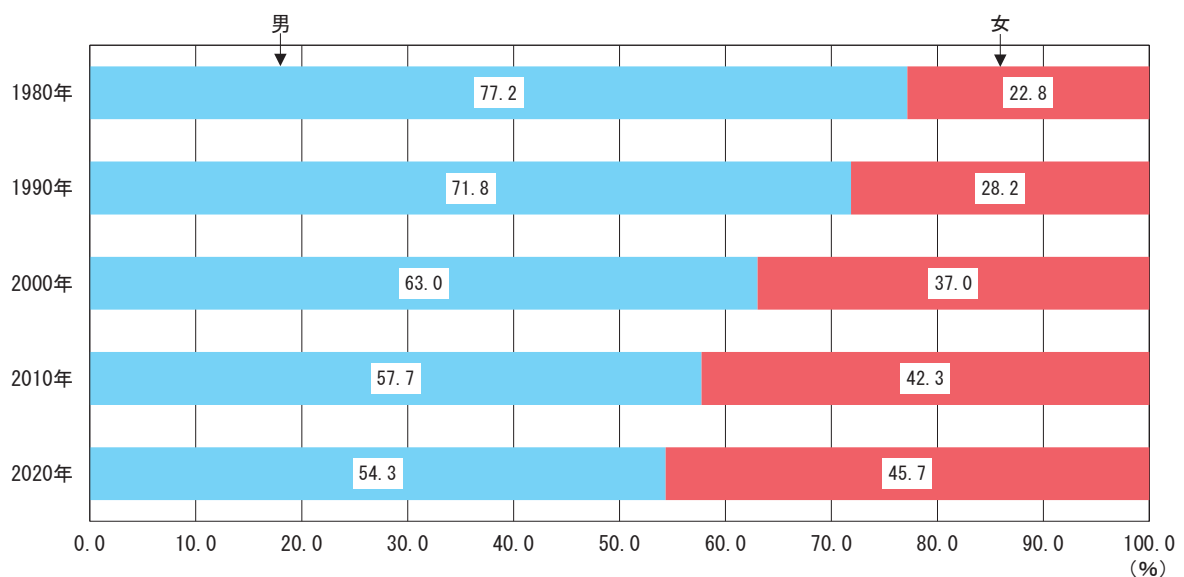
A 若い世代ほど、最終卒業学校が「大学」「大学院」卒業者の割合が高い傾向

- ◆ 20歳代後半～40歳代後半では、最終卒業学校が「短大・高専」「大学」「大学院」の割合が半数を超える
- ◆ 年齢階級が高くなるにつれ、最終卒業学校が「小学校」「中学校」の割合が高くなる傾向があり、80歳代以上では4割を超える

注意点④ P. 39

Q3 大学・大学院の男女比は怎么样了の？

大学・大学院在学者の男女別割合（1980年～2020年）



A 2020年は、男性54.3%、女性45.7%

- ◆ 1980年は、男性は77.2%、女性は22.8%であったが、差は年を経るごとに縮まっている